

令和8年度第1回福岡県教育振興審議会 会議概要

<日時>

令和8年4月23日（木） 10：00～11：30

<場所>

福岡リーセントホテル クリスタルルーム

<出席者>

委員19名中16名出席

（副島会長、山田副会長、井本委員、瓜生委員、大坪委員、奥田委員、鬼頭委員、久保委員、
讃井委員、猿樂委員、志牟田委員、多々野委員、中尾委員、中茎委員、宮崎委員、森委員）

傍聴者 なし

<議事概要>

- 1 開会
- 2 福岡県教育委員会教育長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 諮問

資料1により、福岡県教育委員会から福岡県教育振興プランの策定について、諮問が行われた。

5 議題

- （1）福岡県教育振興プランの策定について

資料2により、事務局から説明が行われた。

主な意見は以下のとおり。

- （2）高校教育改革部会の設置について

資料3により、事務局から説明が行われた。

質疑等なし。

- 6 今後のスケジュール（案）
- 7 閉会

<議題（1）主な意見>

○視点1（生成AI等の高度化を踏まえた「次世代型教育」推進の在り方）

- ・ 基礎学力の着実な定着の視点を大切にしてほしい。
基礎学力の定着があって初めて生成AIを最大限に活用できる。
- ・ 生成AIは活用が広がる一方、全て信用すべきではないところもあるため、精度を高めて効果的になるような生成AIの使い方について、教育に取り入れて行ってほしい。
- ・ 生成AIやスタディ・ログの活用などの教育DXの恩恵を、地域間の格差無く、いずれの地域でも受けられるような環境を構築していくことも必要。

○視点3（「鍛ほめ福岡メソッド」深化の在り方）

- ・ 子どもの自律性を高めるため、子ども自身が目標を設定し、自己評価を行うような教育を体系的に実践していくべきである。努力をすれば報われるという信念を身につけることが、変化を求められる時代を生き抜いていく力の基盤となるので、ぜひ深化していただきたい。
- ・ 不登校は、既存の教育システムを変革させるための子どもからのサインであると考え。県独自の「鍛ほめ福岡メソッド」を、学校復帰をゴールとする指導から、子どもがどこで学んでも成長を認めて繋がり続けるという育成へと昇華させていく方向性で検討されてはどうか。

○視点4（多様化する子どもを誰一人取り残さない教育充実の在り方）

- ・ 増加する不登校の子どもへの支援については、考え続けていかなければならない課題である。
- ・ （視点3 2点目 再掲）
- ・ 多様な子ども向けの学習プログラムの開発や様々なコンテンツの作成に AI アバターを活用するなど、新たなツールを活用する例もある。

○視点5（地域とともにある学校づくり推進の在り方）、視点7（「人づくり、つながりづくり、地域づくり」に資する社会教育推進の在り方）

- ・ コミュニティ・スクールが形式的な会議体になりやすいところがあり、学力の向上や不登校、部活動の地域展開、放課後の居場所づくりなど地域課題への実動組織に進化させていくことが必要であり、コーディネーター人材の支援が必要。

○視点6（「教師のウェルビーイング」を根幹とする持続可能な学校づくり推進の在り方）

- ・ 働き方改革について、時間削減だけを目的化せず、働きがい、働きやすさといった視点から「教師のウェルビーイング」を見つめ直すことが必要。
- ・ 様々な課題へ対応や教師のウェルビーイングを高める環境の醸成は、管理職のマネジメント能力にかかっている。管理職育成の体系的な研修プログラムの構築や、法律や ICT など専門的な内容についてバックアップする仕組み作りが大切。
- ・ 生成 AI の活用では、教員の業務負担軽減につながる内容について積極的に取り組んでみてはどうか。

○視点8（子どもの健やかな成長を支える健康教育、スポーツ・文化活動推進の在り方）

- ・ 子供のころから運動の大切さを学ぶことは非常に重要である。歩くことなど身近なものであっても、習慣化すれば、将来、自然と運動することへと繋がる。